

ほほえみ



第53号(平成30年3月)
発行：小山市教育委員会

「平成29年度 栃木県人権に関する作文」最優秀賞受賞作品を紹介します。

「心のバリアフリーをめざして」

小山市立間々田小学校 6年 尾島 愛菜

「えっ。本当にヴァイオリンの演奏ができるの。」

わたしが母の友人を見て最初に思ったことでした。

夏休み、母の友人がヴァイオリンのチャリティコンサートを開くので、母がボランティアでピアノの伴奏を引き受けることになりました。私はヴァイオリンの演奏を聴いてみたかったので、とても楽しみにしていました。

しかし、私は母に母の友人を紹介してもらったときに何も言えなくなってしまいました。

母の友人は視覚障害で目が全く見えない男性でした。白い杖をついて、「君が尾島くんのおじょうさんだね！よろしくね！」

と、握手を求めてきました。しかし私は握手をためらってしまいました。

母の友人と母の練習が始まりました。ヴァイオリンの音がしたとたん、私は聞いたことのない情熱的なヴァイオリンの音色に鳥肌がたちました。そしてヴァイオリンの曲の世界にどっぷり入りこみました。

「視覚障害なのにどうやって練習しているのだろう。どうやって楽譜を読むのだろう。」

質問しようか迷いました。もしかすると失礼になり、怒らせてしまうのではないかと悩みました。母に質問していいか相談すると、母はにこにこしながら、「質問してごらん。きっと話しかけてくれて喜ぶと思うよ。お母さんも学生の時に同じような質問をしたことがあるしね。」

と答えました。

思い切って母の友人に声をかけて質問してみました。すると、母の友人はいやな顔を見せず、楽譜は点字を打つ人に頼んでいること、練習はできる限り毎日して、ふつうにレッスンを受けていることを話してくれました。私もピアノを習っていますが、同じように練習していることを知り、共通点があることに気付きました。

でも、なぜ最初の私は紹介されたときに何も言えなくなってしまったのでしょうか。

私は、母の友人が視覚障害と言うことで、私の中で普通にはできないという「心のかべ」を作ってしまったのです。頭の中では差別はいけないと分かっていたつもりですが、無意識のうちに「心のかべ」を作っていました。

この経験からわたしはどの人とも自分も相手も同じ人間であることを忘れてはいけないと思いました。そして相手の心によりそい、相手を理解し合う努力をすることが大切だと思います。そうすることで互いの人権を守る大きな力になるのだと実感しました。

みなさんも頭では人権差別はいけないと思っけていても「心のかべ」を作ってしまうことはありませんか。「心のかべ」を作らないためにも相手の心によりそい、相手を理解し合う努力をしていきませんか。みんなで心掛ければきっと本当の「心のバリアフリー」ができるのだと思います。

※ 原文のとおり記載しています

障がい者に関するマークについて



**障がい者のための
国際シンボルマーク**
障がい者が利用できる
建物や施設を示す世
界共通のマーク



身体障がい者標識
身体に障がいのある人
が運転する車をしめ
すマーク



聴覚障がい者標識
耳に障がいのある人
が運転する車をしめ
すマーク



**盲人のための
国際シンボルマーク**
目に障がいのある人の世
界共通のマーク



耳マーク
耳に障害のある人を
しめすマーク



ほじょ犬マーク
身体障がい者補助犬
同伴の啓発のための
マーク



オストメイトマーク
人工肛門・人工膀胱をつ
けた人が使いやすい設備
があることを表します



ハートプラスマーク
心臓、呼吸器、消化器、腎臓、
膀胱など「身体内部に障が
いがある人」を表します

小山市人権関連ホームページ
【小山人権の扉】をぜひご覧ください。
webで「小山人権の扉」で検索してください。

今回の『ほほえみ』はいかがでしたか？
皆様のご感想・ご意見等を、ぜひお聞かせくだ
さい。e-mail: d-gakusyu@city.oyama.tochigi.jp